

編集委員会からのお知らせ

日本公衆衛生雑誌編集委員長
上原里程

会員の皆様には、平素より本誌の発行に多大なご協力をいただき感謝申し上げます。

目まぐるしく変化する社会情勢において公衆衛生の様々な課題が発生する中、研究成果や日々の実践について発信している本誌の役割はこれまで以上に大きくなっているのではないかと感じております。

本稿では、2025年に発刊されました第72巻1号から12号までの概況と編集委員会の主な取り組みについてご紹介します。

1. 第72巻の概況

掲載数69報で論文種別の内訳は論壇1報、総説1報、原著27報、公衆衛生活動報告8報、資料24報、特別報告7報、会員の声1報でした。第71巻からの推移をみますと、原著、公衆衛生活動報告、資料および特別報告はいずれも増加しておりました。1号あたりの掲載数の範囲は4報から7報でした。なお、2025年1月から12月までの新規投稿数は165報、審査日数（該当月に投稿された新規投稿論文の「投稿から初回審査結果通知まで」の平均日数）は30.7日でした（いずれの数値も2026年1月8日現在）。2023年と2024年の新規投稿数はそれぞれ108報と138報でしたので、2023年から2025年にかけて毎年30報程度の増加がありました。引き続き会員の皆様から多くの投稿を頂けるよう努めてまいります。また、査読委員の先生方には審査依頼のほとんどをお引き受けくださり、期日までに査読結果をお返しくださっておりますので、迅速に審査を進めることができます。査読委員の先生方のご協力に対して心より感謝申し上げます。

2. 編集委員会の主な取り組み

編集委員会では、これまで同様に常時のメーリングリストによる審査に加え隔月で編集委員が顔を合わせて議論する場を設けており、審査に関連する課題、優秀論文賞やベストレビュー賞の選考・選出、投稿規程の改定等について議論しています。昨年実施した規程の見直しとして、グリーンオープンアクセス（セルフアーカイブ）に関する規定の追加や英文投稿規程の改定（和文投稿規程の改定に併せて規程文等を整理）等が挙げられます。昨今の医学雑誌編集の動向を踏まえながら、会員の皆様にとってさらに投稿しやすい雑誌になるよう、投稿規程の見直しを継続的におこなってまいります。

3. 会員の皆様へ：積極的なご投稿のお願い

本誌では質の高い原著論文だけでなく、現場での活用が期待できる公衆衛生活動報告など、公衆衛生の発展に寄与できる論文を数多く掲載していきたいと考えています。そのための取り組みを編集委員一同で議論しながら進めてまいりますので、引き続き多くの論文をご投稿くださいますよう、よろしくごお願い申し上げます。